南スーダンの平和構築：最新の状況と日本の役割

駐南スーダン大使　紀谷昌彦

南スーダン・オールジャパン研究会第２回会合
２０１５年１０月１３日
於：ＪＩＣＡ研究所（市ヶ谷）

１　南スーダンの最新の状況

（１）　政治・治安状況

- ７月９日独立４周年記念行事（７月９日）
- ＩＧＡＤプラス調停下の交渉（７月２４日～８月１７日）
- オバマ大統領のエチオピア訪問・ＩＧＡＤ首脳との会談（７月２７日）
- 合意文書署名（８月１７日・２６日）
- 停戦・治安維持枠組ワークショップ（９月１４日～１８日）
- 南スーダンに関する国連ハイレベル会合（９月２９日）
- ２８州創設の大統領令（１０月２日）
- ＵＮＭＩＳＳマンデート変更・更新の国連安保理決議（１０月９日）
- 今後の注目点：合同モニタリング評価委員会（ＪＭＥＣ）の立ち上げ
  停戦・治安維持枠組（ＣＴＳＡＭＭ）の立ち上げ
  政府・反政府・中間派によるジュバでの協議開始
  １２月１６日以降のＵＮＭＩＳＳマンデート

（２）　人道・経済状況

- 人道：国内避難民１６５万人，難民６３万人（２０１３年１２月以降），
  食糧不足４６０万人
  ⇒国連本年分アピール１６．３億ドルのうち，確保は５１％のみ
- 経済：産油量減少，国際原油価格下落⇒外貨準備枯渇，財政悪化
  ⇒公定・実勢為替レート乖離が５倍以上に拡大
- 今後の注目点：治安状況を踏まえての人道・開発支援の展開
  為替レート統一化の見通し

（３） 全体の構図

- 南スーダン（特に政府・反政府・中間派），ＩＧＡＤ（特に周辺国），ＡＵ，トロイカ・ＥＵ，中国，国連の多重構造
- 政府・反政府・中間派・その他政党・市民社会各々の部内状況と相互関係
- 米国の主導的役割とその他のアクターの動き
- 政治・治安が最優先，それが人道・開発にも大きく影響

２　日本が果たすべき役割

（１） 日本にとっての南スーダン：目指すべき国益と世界益

- アフリカの平和と安全
- 国連の場での貢献
- 国際平和協力（国連ＰＫＯへの自衛隊派遣）
- 平和構築・人道・開発支援（ＪＩＣＡ，国連・国際機関，ＮＧＯ）
- 経済・資源外交

⇒国際協調主義に基づく積極的平和主義の実践と成果・知見・メッセージの発信
日本の平和外交，平和構築外交，人道・開発外交のフロンティアの一つ

（２） 今後の課題：平和に向けての世界と日本の橋渡し

- 国際社会の取組との連携，日本の強みを生かした貢献
  ⇒既存の知見・人材の活用，将来に向けての知見・人材の蓄積
- 「オールジャパン」の取組の推進
  ⇒インパクトの向上，内外への広報，更なる資源動員による支援拡大
- 平和への貢献の推進と安全性の確保のジレンマ
  ⇒リスクや顕彰をどのように考えるか
- 平和構築支援の前線と日本の普段の生活の結びつき
  ⇒平和構築外交を展開する国内的基盤の構築

（以上）